

王滝小学校で赤かぶについての授業を行いました

○実施日 9月10日

○場 所 王滝村小学校

○内 容

令和6年度「信州の伝統野菜」学校栽培支援事業の一環として、王滝小学校で赤かぶについての授業を行いました。

授業全体の流れとしては、信州の伝統野菜について学び、学校内圃場で王滝村の伝統野菜である「王滝蕪」の種まきから収穫までを行います。そして、収穫物を用いて、木曽地域の伝統食である「すんき」作りを行います。

今回は、全校児童11名に対して、（1）木曽地域の農業、（2）長野県の伝統野菜、（3）木曽地域の伝統野菜の3つについて授業を行いました。

まず初めに、長野県全体でどのような野菜や果物が作られているか、どのくらい知っているかを児童に質問したところ、キャベツやはくさい、りんご、ぶどうなどが挙がりました。次に、木曽地域で行われている農業として代表的なものについて学びました。その後、木曽地域でいちばん多くつくられている野菜は何かについてのクイズを行ったところ、多くの児童が正解であるはくさい（御嶽はくさい）と答えていました。

最後に、信州の伝統野菜は何種類あるのか、その中で木曽では何が作られているのかについて学びました。木曽では赤かぶだけで6種類もあり、その中で王滝村では王滝蕪が作られていることを学びました。

授業の後、実際に王滝蕪の種まきを行いました。児童たちは、終始興味深そうに種を観察したり、種まきをしていました。



写真1：授業の様子



写真2：王滝蕪の種まきの様子